

# ウクライナ西部の支援活動

「創造的復興」の理念を活かしたウクライナ支援検討会シンポジウム

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)  
石原朋子



## 運営背景

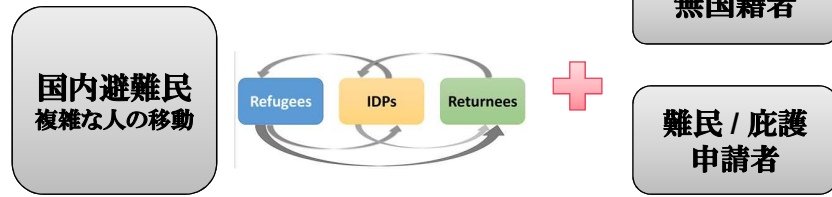
- 安全性:** 国内で一番安全な場所、ただしイヴァノ・フランキーウスク州においては重要なインフラがあり少し不安定
- 政治:** 政府の主導、住居・経済統合・開発に重点を置いた活動
- 社会経済:** 紛争により東部から西部に移転した企業の存在、市民一人当たりの国内避難民の割合高、4か国を跨ぐ12の国境地点 (= 人の移動)、ロマ人口が国内最大 (推定10万人)

UNHCRウジホロド事務所の管轄地域



# 難民・無国籍者・国内避難民の情勢

## UNHCRがウクライナで支援する人々



- 国内避難民の優先的課題**  
(参加型評価/Participatory Assessments 2022-23; MSNA 2023)
- ❖ 住居
  - ❖ 身分証明書(民法上の身分、宅地物権)
  - ❖ 精神心理的サポート
  - ❖ ヘルスケア
  - ❖ 生計
  - ❖ 社会経済統合・社会的結合
  - ❖ 子どもの保護

## 数字で見る情勢(ザカルパティア、イヴァノ・フランキーウスク)

**国内避難民 55万人**  
(政府による推定)  
うち、26万1千人が登録された国内避難民

**ロマ 10万人**  
(政府による推定)  
92 定住区域

**集合避難所 405棟**  
**国内避難民 1万3千8百人の国内避難民が居住**  
(Source: CCCM Cluster)

95%の国内避難民が民泊  
(政府の推定)

8千7百人の国内避難民(63%)  
が非住宅ストックに居住  
うち、3千8百人が幼稚園や学校に居住

\* 大多数は、ルハンスク、ドネツク、ハルキウ、ザポリージャ州からの国内避難民 = 社会統合を支援する必要性の確認



# ウクライナ戦争の影響を受けた人々のニーズの変化

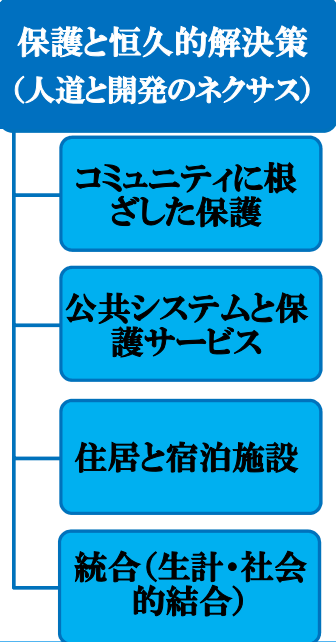
**2022年 3月 - 8月**  
人命救助と緊急支援

**2022年 8月 - 12月**  
保護サービス、市民社会の動員、住居

**2023年**  
持続可能な解決策 - 複雑なニーズへの対応と生計立て直し



# ザカルパティア、イヴァノ・フランキスカ州の支援活動



帰還することができない国内避難民を対象にした支援:

- ✓ 生活の再建;
- ✓ 受け入れ先の社会へ平和的な統合;
- ✓ 公共政策への市民社会参加の助長;
- ✓ レジリエンス(回復力)と経済的包摂の強化(人道支援への依存を軽減);
- ✓ 社会福祉、行政ほかサービスへのアクセスを確保;
- ✓ 適切な居住環境の確保

緊急ニーズへの対応:

